

福井県高P連会報

発行人 福井県高等学校PTA連合会
(福井県生活学習館「ユウ・アイふくい」内) 生島直樹
URL: <http://koupren-fukui.gr.jp/>



令和7年度福井県高等学校春季総合体育大会サッカー競技
福井商業高等学校 対 啓新高等学校



会長挨拶

「和」と「輪」の未来へ

生島直樹

本年度、県高等学校PTA連合会会長を務めさせていただきまます生島です。大役を仰せつかり、その職責の重大さに身の引き締まる思いですが、引き受けたからには全力で職務に精励する所存です。

さて、ここ福井は昨年、北陸新幹線敦賀延伸開業という新たな歴史の扉を開きました。皆さんは、この北陸新幹線がどのようなコンセプトでデザインされているかをご存じでしょうか？

それは「北陸の空の澄んだ青」、「九谷焼の白」、そして「象眼細工の銅」の各色を散りばめた新幹線が北陸の地と東京を結び未来へ向かって走っていく姿、即ち日本の「和の未来」をコンセプトとしています。

ここで、この中に出てくる「和」と「未来」というワードに注目してください。

私はこれまで、PTAは学校と生徒たちをバックアップする、縁の下の力持ちのような組織だと思っていました。

先般、教育長とのお話の中で、「これまでは学校が生徒を先導し、PTAが後方をバックアップするというのが構図でしたが、これからは学校とPTAが両輪となって生徒をしっかり支えて進んでいきたい。」と述べられ、私は深く感銘を受けました。

学校は教育のプロフェッショナル機関であり、生徒たちのために様々な取り組みを行う一方で、学校だけでは手が届かない部分も少なからず存在します。

そこで我々PTAが、保護者の視点から学校をサポートし、時には新たな視点を提供する。即ち、学校とPTAがそれぞれの強みを活かし、互いに協力し合うことで、生徒たちはより安心して、より充実した学校生活を送ることができるようではないでしょうか。

北陸新幹線が日本の「和の未来」ならば、学校教育は、学校とPTAが両輪となり、生徒を未来へと導く「輪の未来」をコンセプトとして、ともに進んでいくことが重要であると思います。

また、PTA活動においても変化を恐れず、常に「今、生徒たちにとって何が最適か」「今、学校にとって何が必要か」を問い続け、柔軟に対応していくことが重要です。それには保護者の皆様、そして地域の皆様、さらには学校の先生方、すべての方々のご理解とご協力があったこそ成り立ちます。私も皆様との対話を大切にし、忌憚のないご意見を伺いながら、より開かれた運営を目指してまいります。

一年間、よろしくお願い申し上げます。

第六十三回県高P連年次総会

新会長に生島直樹氏(科学技術高校PTA会長)を選出!

令和七年度の年次総会が六月三日(火)、AOSSA県民ホールで、各単位PTAから会員百二十一名が参加して開催された。大熊彰子副会長の「開会のことば」の後、挨拶に立った入場理会長は、「令和六年度の福井県高P連は、各単位PTAの工夫を凝らした多岐にわたる活動と、キャリアガイダンス研修会、研究大会を中心とする各委員会の積極的な活動に支えられ、子どもたちの学校生活を様々な面からサポートし保護者との連携を深められたと感じております。」

ただ、子どもたちを取り巻く環境は常に大きく変化しています。県高P連としては、これまでの活動を継承しつつ、以下の三点に注力していきたいと考えています。一点目は、家庭・学校・地域社会の連携強化です。二点目は、変化する社会に対応できる生徒の育成支援です。三点目は、PTA活動の達成と会員相互の交流促進です。

そのためには、会員の皆様一人ひとりのご理解とご協力が不可欠です。皆様の貴重なご意見をいただきながら、より良い高P連活動を目指していきたい、継続していって



入場理高P連会長挨拶

ただきたいと存じます。

福井県の高等教育の発展と子供たちの健やかな成長のため、役員一同誠心誠意努めてまいります。共に力を合わせ、活気あるPTA活動を展開できますようお願い申し上げます。」と話された。

次に、来賓として出席された松下晋也県教育委員会学校教育監は、高P連年次総会が盛大に開催されることへのお祝いの言葉と表彰を受けられる方々への感謝の言葉に続けて、「教育に関する大綱」に基づき策定された『第四期福井県教育振興基本計画』についてお話されました。「先の見えにくい時代と言われる一方で、北陸新幹線開業による新たな賑わいが生まれ『福井の未来』に明るい希望が開けてきました。」

こうした状況の中、福井の将来を担う子どもたちにはこれからの人生を切り拓いていくチャンスが広がっています。また、『地域の未来』と『自分の人生』は繋がっており、地域社会を良くする志を持つことは、自分の人生と地域をもっと豊かにすることだと思います。

そこで、本県では子どもの個性を『引き出す教育』や探究心をもち『楽しむ教育』、『ふるさと教育』を進め、子ども一人ひとりを大切に『子どもが主



松下晋也学校教育監祝辞

役の教育』を推進してまいります。そして、自らの可能性に挑戦し、未来を切り拓いていく『生きる力』を身に付けてほしいと願っています。

その中心にあるのは探究的な学びであり、さらなる探究の充実のため、今まで以上に高校生と外部人材が繋がる体制づくりに努めてまいります。『地域探究コーディネート』、『ふくい探究学習サポーター企業』等を活用して支援して参ります。定時制・通信制高校においては、デジタル教材を活用し、個別最適な学びや実体験を通じたキャリア教育の推進してまいります。職業系高校には、『ふくい産業教育フェア』を県民にも見てもらえる機会を本年度創出すると共に、中学生向け職業系学科紹介冊子の作成、キャリア教育出前授業などで魅力度アップを図っていきたく考えています。保護者の皆様におかれましても、色々な局面で高校生のがんばっている姿をご覧いただけると、励みにもなり、大変ありがたく存じます。

子どもたちの夢の実現には、家庭・地域・学校三者の連携が不可欠であり、皆様方のさらなるご理解、ご支援、ご協力をお願いしたいと思います。」と挨拶された。

続いて、来賓の山本寛県高等学校長協会会長(藤島高校校長)は、年次総会が盛大に開催されることへのお祝いの言葉に続けて、「春季総体が始まっています。特に最後の大会となる三年生には、悔いの残らないよう全力で競技し、勝敗に関わらず達成感を持って大会を終えてほしいと願っています。」

この後、就職試験、大学入試と続き、いよいよ三年生一人ひとりの進路実現に向けた挑戦が始まります。それぞれの高校では生徒全員の進路実現を全力で支援して参りますので、PTAの皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

ところで、今の時代は先行きが不透明で予想が困難な時代です。このような時代をより良く生きていくためには、自ら考えて主体的に行動する姿勢が必要であると言われています。現在の教育課程では、生徒が主語の教育がうたわれており、生徒が主体的に活動する教育の実現に向けて、各校とも精一杯取り組んでいます。

多くの知識を得て様々な経験をする中で、自分のやりたいことや学びたいことが見えてきて、主体的な行動がとれるようになるのではないのでしょうか。各校では、その可能性を引き出すための課題研究や研究活動など様々な学びの機会を提供しています。校外でも多くの教育的なプログラムが企画されています。

保護者の皆様には、生徒がこのような多くの学びの機会に積極的に参加するよう後押しをよろしくお願い致します。学校と家庭がしっかりと連携することで生徒は大きく成長してまいります。今後も、皆様方の格別のご理解、ご支援を賜りますようお願いいたします。」と挨拶された。

来賓祝辞の後、表彰状贈呈に移り、



山本寛校長協会会長祝辞



県教育委員会表彰

PTA活動に特に功績のあった五名が県教育委員会から表彰され、各校PTA活動に貢献された三十九名の方々が当連合会会長から表彰された。続いて広報紙コンクルの表彰が行われ、最優秀賞藤島高校、科学技術高校以下九校のPTAが表彰された。

その後議事に移り、令和六年度事業報告、会計決算報告が承認された後、役員の改選が行われ、会長に生島直樹科学技術高校PTA顧問が選出された。退任役員を代表して入場理会長、新任役員を代表して生島直樹会長の挨拶の後、議事が再開、令和七年度事業計画案・予算案が審議・承認され、年次総会は終了した。



7年度役員新任挨拶



6年度役員退任挨拶

一、被表彰者氏名(敬称略・五十音順) ※役職は令和六年度時

*県教育委員会表彰

県高P連会長・藤島高校PTA会長 入場 理
 県高P連理事・若狭東高校PTA会長 大江 康
 県高P連副会長・武生東高校PTA会長 大熊 彰子
 県高P連理事・大野高校PTA会長 田中 宏直
 県高P連副会長・敦賀気比高校父母と教師の会副会長 矢田 弘

*県高P連会長表彰

各校より推薦されたPTA役員 三十九名

二、令和七年度県高P連役員氏名

顧問

入場 理
(藤島)

会長

生島 直樹
(科学技術)

副会長

八木 康史
(金津)

大友 清貴
(武生)

岡本 剛司
(若狭)

理事

山田 憲二
(福井商業)

塚田 亜紀
(坂井)

内田 真次
(武生商工)

森野 宏一
(敦賀)

監事

浜本 亜紀
(福井農林)

齊藤 隆敏
(奥越明成)

三、令和七年八月以降の主な行事

*全国高P連大会三重大会

八月二十一日(木)・二十二日(金) 津市

*キャリアガイダンス研修会

九月六日(土) 県生活学習館多目的ホール

*研究大会

十一月一日(土) ホテルフジタ福井

福井県の高校教育の取組みについて

福井県教育委員会

はじめに

日頃より県高等学校PTA連合会の皆様におかれましては、本県教育活動に多大なる御理解と御協力をいただき、感謝申し上げます。本県では現在「子どもが主役の教育」を推進しており、その取り組みについて、以下で御紹介いたします。

■教育に関する大綱および教育振興基本計画の改定について

県では、本県の教育等の振興に関する基本的な方針である「教育に関する大綱」および、その実行計画である「教育振興基本計画」を令和六年度に改定しました。子どもたちが「夢と希望」を持ち、一人一人の個性を発揮しながら人生を切り拓いていけるよう、「子どもが主役の教育」を推進していきます。

今回の改定においては、デジタル技術を活用した個別最適な学び、ふくいで働き暮らすことの価値を見いだす「ライフデザイン教育」、子どもが安心して学べる場の充実等、特に重要な項目と位置付けており、一人一人が主体的に、自らの将来や地域の未来を考え行動する力を育てていきます。

さらに、学習環境向上の取組みとして、メイン体育館への空調設置や、バリアフリー化等による安全性向上に加え、教育DXの基盤となるタブレット端末の公費整備により、個別最適な学びを推進していきます。

■地域デザイン講座

令和六年度から、二〇四〇年の県の将来像を高校生が探る「地域デザイン講座」を実施しています。藤丸伸和教育長が講師となり、生徒が「地域の未来」と「自分の人生」が重なり合っていることを実感し、自身の将来を主体的に考えるきっかけとなることを目的としています。

講座では、まず福井の魅力や課題についてグループで話し合い、その解決策を考えた後、藤丸教育長より県が策定した「福井県長期ビジョン」についての解説を受け、最後に「三十歳の自分」の姿を思い描きます。

受講した生徒からは、「今まで知らなかった福井の良さや可能性に気づくことができ、地元進学や就職に自信が持てるようになった。」などの感想が寄せられ、多くの生徒が本講座の趣旨を理解してくれました。



■地域の核となる魅力的な学校づくり

今年度新たに、地域と連携した「ライフデザイン教育の推進」や「地元小中学校への魅力発信・交流連携」による県立高校の魅力向上を目的として、「地域の核となる魅力的な学校づくり」を実施しています。具体的には、OB、OGを招いている講師を招いての職業発見講座、オーブンスクールの充実や高校生による母校訪問など、各学校独自の取組みに対して県が支援します。自分の通う学校や自分の住む地域について魅力を再発見するとともに、中学生に向けて高校の魅力発信をしていき高校生の地域や自校への愛着を育むことを目指します。

■全国高校生プレゼン甲子園

論理的思考力、表現力、創造力を養うとともに、総合的なプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的に、全国高校生プレゼン甲子園を開催しています。昨年度は、過去最多の七五五チームのエント



リーがありました。今年度はそれを上回る、七七七チームのエントリーがあり、地域ブロック大会を経て選出された十チームが、本大会のテーマである「多様性と寛容性が織りなす未来に向けての提言」に基づき、プレゼンを披露します。昨年度から文部科学大臣賞も創設され、ますます大会規模が大きくなりました。今後本大会を重ねていき、主体的かつ探究的な学びのアウトプットの場として全国の高校生が目標とする大会に育てていきたいと考えております。

■プロ人材高校（職業系高校）の教育の充実

県では、地域を支えるプロフェッショナルな人材の育成を目指す高校をプロ人材高校と呼んでおり、その特徴的な取組みについて、三点紹介します。

一点目は、マイスター・ハイスクール普及促進事業（先進的取組型）です。昨年度、地域における産業界等とプロ人材高校の連携体制構築を通じて産業人材育成のための教育の充実を目指す文部科学省事業として、本県が採択されました。

拠点校となった坂井高校と武生商工高校での取り組みに加え、前指定校の若狭高校のノウハウを県内の全部のプロ人材高校へ普及させることにより、県全体の「地域の人材育成や確保」および「プロ人材高校の魅力向上」につなげていきたいと考えています。



二点目は、現代の産業構造に対応した福井県独自の職業学科共通科目「ふくいの産業」(オンライン講座)です。プロ人材高校では、経営者、技術者、行政担当者等から地域産業の現状や行政および先端企業の取り組みに関する授業をオンラインで視聴しています。アーカイブ視聴ができるようにライブラリーも構築しています。

三点目は、福井フューチャーマイスター制度です。この制度は、資格取得、コンクール入賞等を難易度に応じて得点化し、その合計点数により、表彰しています。また、難易度の高い資格や地元企業からのニーズが高い資格は、受検料を補助しています。これにより、生徒の意欲や活力の向上を促進し、将来にわたり、地元企業において活躍できる人材の育成を目指しています。

理系人材の育成

県内の女子高校生に理系分野への関心を高めてもらおうと、「ふくいGirls未来のテックリーダー」プロジェクトを実施しています。

プロジェクトでは、八月上旬に三日間の東京研修、八、九月に県内のIT企業の永和システムマネジメントと連携し、全四回のゼミ講座の実施を予定しています。東京研修では、大手IT企業を訪問し、エンジニアとして活躍している女性社員のキャリアトークを聞いたり、プログラミングを用いたホームページ作成に挑戦した



ります。昨年度は、藤島、高志、武生、武生東、敦賀、若狭から四十三名の参加があり、今年度も五十名程度の参加者で実施予定です。また、ゼミ講座では、プログラミングやデータ分析の基礎知識を学びます。昨年参加した生徒からは、「理系分野で活躍している女性の話を聞いて背中を押された」、「プログラミングは難しいイメージだったが、自分にもできるとわかった」などといった感想が聞かれました。

サイエンス教育について

平成二十年度から「ふくい理数グランプリ」を科学的な思考力・判断力・表現力等の育成を目的に実施しています。個人またはチームで参加し、筆記問題や実生活に関連した実験・観察問題に取り組みます。これは「科学の甲子園全国大会」の出場校の予選も兼ねています。

また、毎年実施している「ふくいサイエンスフェスタ」では、本県ゆかりの南部陽一郎博士のノーベル物理学賞受賞を記念して、平成二十一年度に創設された「南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞」を、科学コンテストや理数研究等で優秀な成績を収めた県内の小・中・高校生に授与しています。

グローバル人材育成

県教育委員会では、地域の良さを理解し、英語で発信できる「世界から福井に呼び込む」人材や海外留学を視野に入れ、「世界に羽ばたく」人材を育成することを目指し、「ふくいグローバルスクール」を立ち上げました。これは、校外の英語での交流や活動を通して、さらなる英語力の向上と自己のキャリアビジョンの形成

を目指しています。

サークルには、国際交流に関心のある高校生が学校の枠を越えて、約百三十名登録しています。六月・四日にはキックオフミーティングを開催し、約六十名が初めて顔を合わせました。外国語指導助手(ALT)を交えて、英語の自己紹介やゲームをして交流し、同じ興味を持つ他校の生徒と親睦を深めました。また、福井商業高校JETSの顧問、五十嵐裕子氏の講演もあり、新しいことに挑戦しようとしている生徒に向けて、夢を持ち積極的に行動する大切さをお話いただきました。

今後は、県外の留学生と自分の将来像について考える英語サマーカーンや、県内のグローバル企業との交流会などを行う予定です。

教育相談体制の構築

学校においては、生徒指導と教育相談の一体化を目指し、スクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカーと教職員との連携強化を図っています。また、個々の教員が教育相談に関する資質や専門性を向上させ、早期発見・未然防止の観点から支援する連携体制を充実させ、生徒理解を図り、適切な支援・援助に繋げる協力体制(チーム学校)を構築していく必要もあります。

学校の教育相談体制の充実を図り適切な支援・助言ができるよう研鑽を積むとともに、情報交換等により業務の在り方



等を見直すなど、その改善を図る目的でスクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカー合同の研修会を実施しました。

新入生と保護者の進路講演会

令和四年度から実施されている学習指導要領に基づいて、高校での学びが大きく変わる中で、大学入試で問われる力も変化してきております。このことを受け、高校入学後の早い段階から、探究的な学びの理解を深めてもらうため、四月に新入生とその保護者を対象とした「新入生と保護者のための進路セミナー」を実施しました。会場での対面とオンラインのハイブリッドで行い、オンライン視聴を含めて約二五〇名の参加がありました。

藤丸教育長より「福井の教育について」の説明があり、ベネッセ教育総合研究所の山下真司氏より「高校での学びとこれからの大学入試に向けて」ご講演をいただきました。県の教育への理解を深め、また探究的な学びの重要性や、そこから繋がる将来のキャリア形成について、親子で考えを深める機会となりました。



おわりに

県高等学校PTA連合会の皆様には、お子さまの健やかな成長を支えるために、今後ともご協力のほど、お願い申し上げます。

ちよと おじゃましま〜す!

Introduction

丸岡高校

令和七年四月三十日、日本のさくら名所百選の丸岡城を校舎から眺めることができる丸岡高校におじゃましました。

大正二年創立、昭和二十三年に福井県立丸岡高等学校と改称され現在に至る歴史と伝統を有する学校です。今回の取材では、中出PTA前会長、竹内PTA現会長、磯野学校長にお話を伺いました。

『think globally, act locally to make your dreams come true』身の回りの事象や地域の課題をグローバルな視点で捉えて行動し自己実現を達成する』を校訓に、「普通科みらい共創コース」・「普通科スポーツ探求コース」二つのコースに分かれ二七一名の生徒が勉学に励んでいます。各コースの特色として、みらい共創コースの「みらい☆タイムズ」発刊による丸岡高校の魅力発信や海外とのオンラインによる異文化交流、百種類以上の講座がある学校設定教科「みらい」には特に魅力を感じました。また、全国大会常連のサッカー部を筆頭に部活動が盛んな丸岡高校らしく、スポーツ探求コースの最先端の機材導入による科学的な分析を

取り入れた授業、将来を見据えた視点からサポートする人材育成プログラムは素晴らしいと思いました。

私は、今回「地域協働部」に注目しました。福井といえば「おろしそば」ということで、地域協働部では地元丸岡産を使いそば打ちの練習を行っているそうです。取材日にも生徒がそば打ちをしていましたが、さすが全国高校生そば打ち選手権常連、段位を持った部員も多く、その手さばきはまさに職人でした。



地域協働部のそば打ち

このような学校の活動をサポートするPTAは、年二回のPTA便りの発刊、文化祭のキッチンカー販売コーナーの運営、生徒の熱中症対策として体育祭やマラソン大会でのスポーツドリンクの配布などを恒例行事として行うなど、学校との連携に積極的に取り組んでいます。

お二方の会長は、学校と連携し生徒の高校生活の支えとなることを第一に、保護者の声を学校に届ける存在として今後も活動していきたいとおっしゃっていました。

皆様も、随時更新の学校ホームページや公式Instagram（みらい☆タイムズ）を、ぜひご覧いただき、丸岡高校の魅力を感じてください。

（坂井高等学校PTA会長 安久武志）

Introduction

敦賀気比高等学校

この企画は、調査広報委員が直接「ちよとおじゃま」し、伺った話の中から委員独自の感性でこれはと思われるものを紹介していくものです。

敦賀気比高校におじゃましました。同校は、「時習（自学・創造）」「自律（立志・克己）」「慈愛（感謝・奉仕）」という校訓を掲げ、知・徳・意・体のバランスを重視した教育を行うべく、普通科の特別進学コースと進学コースを軸に多彩な専攻を用意し、オンライン英会話を導入するなど英語教育にも積極的に取り組んでいるそうです。

文武両道を推進し、東大・京大など難関大学合格者を出す一方、全国大会の常連となる運動部が多く、生徒自身の可能性を広げられる環境が整っています。メジャーリーグで活躍する吉田正尚選手を筆頭に全国の産業界やスポーツ界など多分野で活躍する人材が多く、若い歴史ながらも実績は華やかであると感じました。

PTA組織は、広報・進路・健全育成・厚生・中学部の五つの委員会に分かれて活動しています。広報委員会では、何と年三回、広報誌『敦賀気比』を発行、学園祭や課外活動の様子を保護者に報告し学校の雰囲気や伝えています。進路委員会は、「気比高キャリア塾」を企画し、生徒が社会の最前線に触れる機会を提供、昨年度は北陸新幹線敦賀駅舎の建設現場責任者を招き迫力あるエピソードを講演してもらい、大きな話題となったそうです。

健全育成委員会は年二回、通学路や



広報誌『敦賀気比』



校舎近辺で交通安全街頭指導を行い、生徒の安全確保のための活動に努めています。厚生委員会は親睦を深めるためのモルック大会を開催したり、気比校祭など保護者の来校時に合わせて制服リサイクル事業を進めるなど環境に配慮した活動が続いています。

昨年度は気比校祭でキッチンカー出店を実現するなど新たな活動にも取り組みながら、「継続しながら誰でもできるPTA活動」を意識し、PTAの負担を軽減しながら生徒と保護者の双方を支える仕組みづくりを進めている姿勢は学ぶ点が多く、今後も気比PTAの活動に注目していきたいと思いがら帰路につきました。おじゃましました。

（武生高等学校PTA会長 川端武志）

第22回 広報紙コンクール

最優秀賞に 藤島高等学校PTA・科学技術高等学校PTA!

令和7年度広報紙コンクールが4月13日(土)に県生活学習館において開催された。特別審査員に大谷貴洋氏(福井新聞社 編集局整理部長)、安竹隆美氏(河和田屋印刷 営業部)をお迎えして、調査広報委員会の委員と併せた9名が応募のあった25団体の広報紙の審査に当たった。

各校ともに広報担当委員の方々の思いや工夫が感じられた。写真がふんだんに使われ、生徒たちの笑顔の掲載が増えたことを感じ、表情からも元気をもらえる広報紙であった。

特別審査員、広報委員の会議の話題の中から、各学校のPTAが今後の紙面づくりの参考になると思われるものを以下に挙げる。

最優秀賞	藤島高等学校PTA 科学技術高等学校PTA
優秀賞	金津高等学校PTA 坂井高等学校PTA
佳作	丸岡高等学校PTA、大野高等学校PTA 福井農林高等学校PTA、武生高等学校PTA 敦賀気比高等学校父母と教師の会

★学校の特色、特徴をアピールしているか。

◎内 容

- ・写真やレイアウトがレベルアップしている。
- ・ページ数、記事内容、全てにおいてボリュームがある。

- ・テーマを深く掘り下げられていて、読み応えがある。
- ・PTAが楽しく作り、手にとって楽しく読める、そんな広報紙を期待する。



藤島高校



科学技術高校

インフォメーション

各校PTA会長会議

六月十四日(土)に「各校PTA会長会議」が生活学習館にて開催されました。自己紹介の後、協議事項の審議に入りました。研究大会やキャリアガイダンス研修会等の今年度の活動について確認し、その後、四つの委員会に分かれて今後の活動計画や役割分担、講師案について協議しました。

そして、各委員会からの報告を行い、次回までの宿題や、連絡網をつくり情報交換を行っていくことを確認するなど、貴重で有意義な会議となりました。

北信越地区高P連研究大会
福井大会

「輝きある未来への継承」を共に生き、共に育つをテーマに、七月十一日(金)～七月十二日(土)開催されました。

大会第一日目は発表があり、武生商工高校PTAが壇上発表、金津高校PTA、高志高校PTA、敦賀工業高校PTAの研究発表は誌上で発表しました。アトラクションでは、武生商工高校吹奏楽部が素晴らしいパフォーマンスを披露しました。

大会第二日目は、福井工業大学スポーツ健康科学部教授の中垣内祐一氏の記念講演が行われました。

会報第八十号で詳細をお届けします。

高校生総合保障制度

発足後31年目を迎えて

平成七年度に発足しました高校生総合保障制度も、毎年多くの加入を頂いており、保護者各位ならびに学校関係者各位のご理解とご協力のもと、当制度は各校のPTAの事業として推進が図られています。

当制度は**福井県自転車条例に全プラン対応しており**、自転車による賠償事故や搭乗中の生徒本人のケガについて大きな補償を設定しています。

ところでこの時期になりますと、当制度に未加入の保護者の方から「入学時に手続きを忘れたので…」「子どもがクラブ活動を始めたので…」などの理由から中途加入をご希望されるケースがあります。まだ、加入手続をされていない保護者におかれましては、このような場合にも備えて是非、当制度の加入をご検討いただければ幸いです。

○中途加入に関するお問合せ先

高校生総合保障制度事務局

株式会社アイル保険センター

〒91010003

福井県福井市松本4丁目6番15号

TEL: 077612313419

(受付時間: 9時～18時 土、日、祝日、年末年始除く)

○保険金の請求方法

保険金の請求についてはお手元にご加入者証をご用意のうえ、事故受付専用ダイヤル(012013001399)までご連絡ください。

保護者の皆様へ

2025年度版

福井県高等学校PTA連合会

適用される割引率※

15% 割引

高校生総合保障制度

ご案内

[こども総合保険＋自転車総合保険]

学校の
休みの日でも

大切なお子さまを補償期間(保険期間)中、**1日24時間補償します**

ただし、一部の補償は24時間補償ではありません。

- 全プラン、学校より貸与されたタブレットを誤って破損した場合に補償されます。
- 全プラン福井県自転車条例に対応しております。

※随時中途加入を受け付けております。

個人賠償責任補償

示談交渉サービス付き

ご家族全員が対象

自転車事故で生徒が加害者になってしまった場合や、誤って他人のものを壊してしまった、他人にケガをさせてしまった場合の損害賠償を補償します。

傷害(ケガ)補償

学校生活だけでなく、塾や習い事など、学校が休みの日も含めて24時間補償します。

※医療費助成などによる、自己負担の有無に関わらず、お支払いの対象となります。

トラブル被害対応補償

いじめ、SNS上での誹謗中傷、ストーカーなどの被害を受けた際、弁護士・臨床心理士への相談費用や、解決のための対策費用を補償します。



学校で嫌がらせに遭い、カウンセリングを受け、弁護士へ解決方法を相談した。



SNSでの悪口の書き込みを削除させるため、弁護士に依頼した。



つきまと被害に遭い、警察に相談し防犯対策をした。

プランによって補償項目が異なる場合がありますので、詳しくはパンフレットのプラン表をご確認ください。

※割引率について:パンフレットで案内している保険商品の算出基準である保険料(加入者数20名未満の団体における保険料)に対しての割合を示します。適用される割引率は前年度の加入者数等に応じて決定します。

引受保険会社: AIG損害保険株式会社

S-250552 2025-07